

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	クリエイティブサポートくら（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日		～ 2024年 12月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1人	(回答者数) 1人
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日		～ 2024年 12月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・こどもの特性を理解し、一人ひとりに合わせた個別支援ができています。	・アセスメントを時間をかけてしっかり取り、こどもの将来を見据えて、長期的な目標と、短期的な目標を明確にし、細かく支援内容の確認をしている。個別支援計画にも支援内容を丁寧に考えて記入を行っている。	・発達検査が行えていないこどももいたため、すべてのこどもが発達検査を受けられるようにしていき、検査結果も含めた支援内容となるようにしていく。 ・評価については、多角的な評価ができる仕組みをつくっていく。
2	・家族への支援を関係機関と連携しながら、丁寧に行う事ができる。また、必要な場合には専門の機関に繋ぐ事ができる。	・保護者との会話の中で困りごとを拾った場合には事業所内で共有し、緊急を要する場合には面談などを実施。関係機関との情報共有をしっかりと行っている。 ・必要な際にはすぐに家庭訪問等を実施。	・母親だけでなく、きょうだい児なども含めた家族全体を支援対象として、対象時の発達が促進できるようにしていく。 ・きょうだい児については、親の負担を感じたり自分の気持ちを押し殺す事がないかの確認をしながら、心理的なケアを含めた支援を行っていく。
3	・こどもがリラックスして過ごせる環境を整備している。また、施設内や敷地が広く、自由に体を使った活動や遊びが天気に左右される事無くできる。	・安全面には充分配慮し、こどもが自由に活動できる空間を確保している。 ・また、床やトイレ、壁などをはじめ、玩具類の消毒もしっかりと行っておりこどもが安心して過ごせるようにしている。	・安全面などを考慮し、敷地内の石拾いや草刈りなどの安全面に配慮をしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・セラピストがいない為、言語面や体の使い方など専門的な訓練の提供が不足している。	・言語面や体の機能面で、こどもの発達段階に合わせた個別でのプログラム作成や、保護者へのアドバイスができていない事がある。 ・日常生活動作や生活スキルを細かく訓練できない。 ・心理的サポートや行動療法ができない。	・法人内のセラピストによる定期的な訪問と、勉強会等を行い、パラプロフェッショナルの仕組みを作っていく。 ・気持ちのプレゼンテーション訓練やルール・絵カードを使った視覚化等多面的な支援をする。 ・将来的にはセラピストの在籍を目指す。
2	・児童の利用児が少なく、小集団での活動や訓練が難しい。	・放デイとの多機能事業所である事から、放デイの利用児だけで定員枠がいっぱいになってしまっており、児童枠を増やせられない状況が続いている。	・放デイの利用児が減少した段階で、未就学児の支援体制を整えていく。
3	・発達支援の内容や、活動風景などをアピールできていない所がある。	・事業所が、どのような支援をしているかを地域に周知できていない。 ・日々の業務に追われて、SNSやHPでの発信まで手が回らない。	・SNSやHPでの発信は、日や曜日を決めてルーティン化していく。また、担当職員も決める。 ・職員一人ひとりが自分たちの持つ強味などを外部で話ができるようなスキルアップをしていく。